

第3次新見市総合計画（案）

将来都市像

人と地域が輝き 未来へつながる
源流共生のまち・にしみ

総合計画は、まちづくりの計画書

企業が経営方針や事業計画に基づいて経営を行うことと同様に、自治体のまちづくり指針が、「総合計画」です。総合計画は、長期的な視点で、まちづくりの理念や目標、具体的な施策や事業などを示すものです。市では、平成17年度に「新見市総合振興計画」、平成27年度に「第2次新見市総合振興計画」を作成し、それぞれの計画に基づいた各種施策を進めてきました。

現在の総合計画は、平成27年度から10年間（令和6年度まで）の計画書です。本年3月末でスタートから5年が経過し、前期計画が終了することから、後期計画（5年間）を作成する予定でしたが、本市を取り巻く環境が急激に変化していることから、本計画を見直し、新たな総合計画を作成することとしました。

【4つの基本理念】

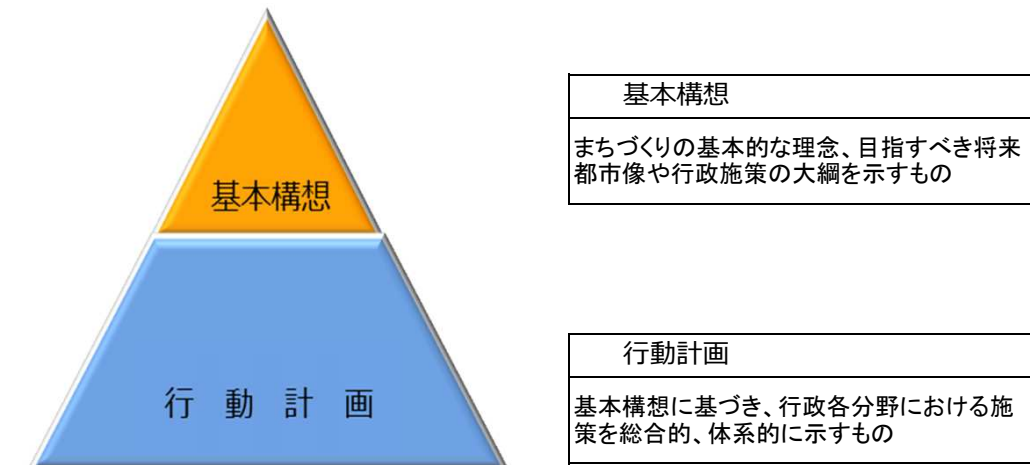
自主自立と協働	人と環境の調和
地域資源の活用	未来への展望と責任

【4つの基本目標】

- ① 産業が育ち、地域経済が躍動する「産業成長」のまち
- ② 若者が夢と誇りを持ち、未来を描く「希望創造」のまち
- ③ 誰もが安心と生きがいを共有できる「健康共生」のまち
- ④ 森林と源流、石灰岩台地が息づく「自然共存」のまち

行動計画
(2020年度～2024年度)
分野別計画

産業・経済	▶ 産業の活力を高め、持続可能な地域経済をつくる
健康・福祉	▶ 健やかに暮らせ、子育てができるまちをつくる
教育・文化・スポーツ	▶ 誰もが生き活きと輝く個性を育むまちをつくる
安全・生活基盤	▶ 安全で、市民生活を支えられるまちをつくる
都市基盤・交通	▶ 人と環境に配慮した質の高い都市基盤をつくる
環境	▶ 自然を守り、安らぎと潤いのある環境をつくる
交流・コミュニティ	▶ 多様な人が集い、交流し、活躍するまちをつくる



	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
基本構想	▶									
行動計画	▶									

※総合計画全体の計画期間は、2020年から2029年までの10年間とし、行動計画は5年間の計画とする予定です。

第2次新見市総合振興計画の実施状況

前期計画期間（平成27年度～平成31年度）に重点的に取組を進めてきた分野

定住人口の増加に向けた取組

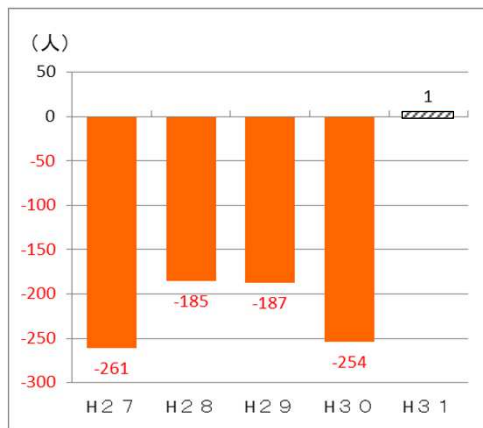
地域資源を活用した交流の活性化と産業振興

雇用機会の創出

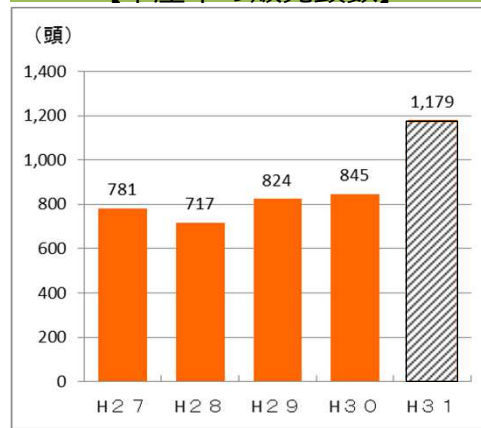
担い手不足の解消

女性が輝くまちの実現

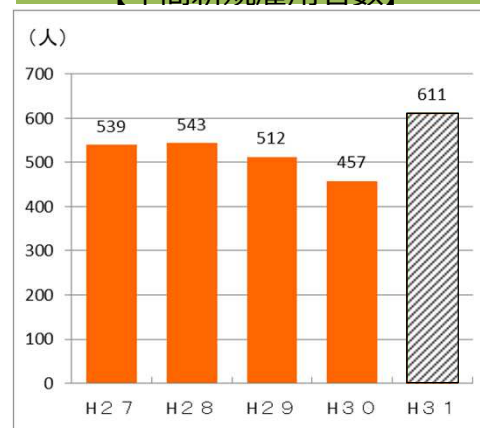
【転入者数－転出者数】の推移



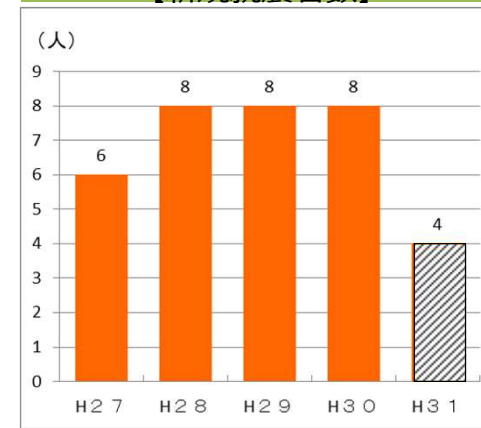
【千屋牛の販売頭数】



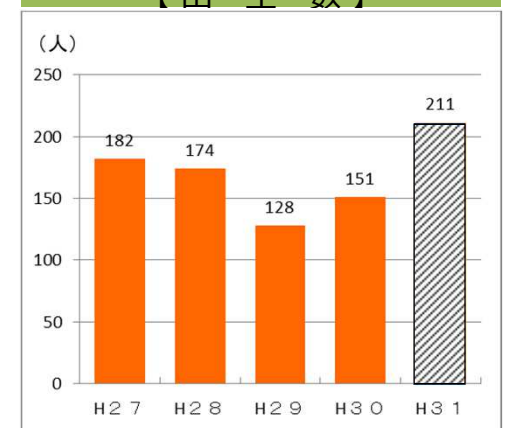
【年間新規雇用者数】



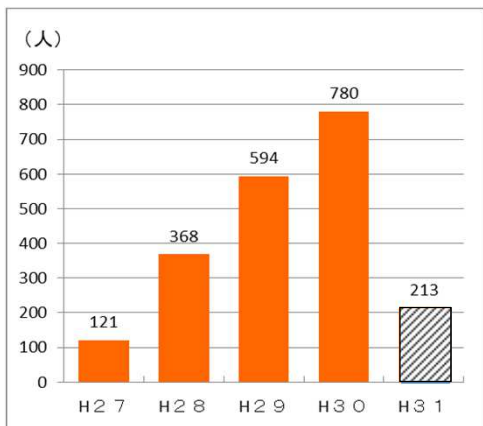
【新規就農者数】



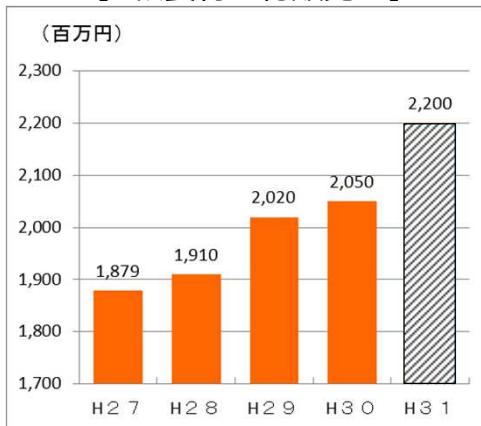
【出生数】



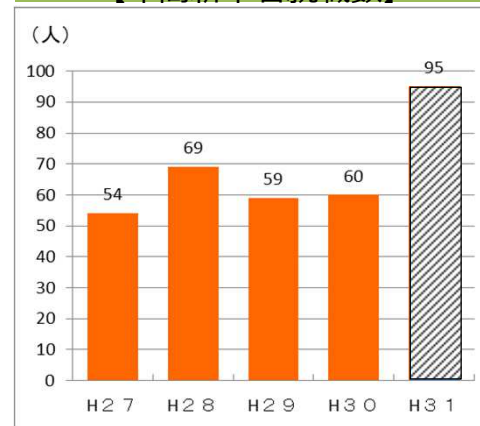
【新見市への移住者数（累計）】



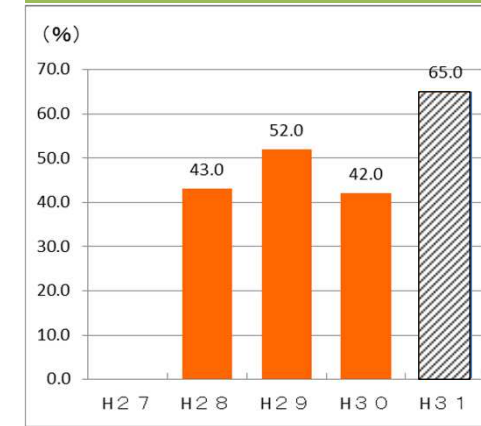
【A級食材の総販売額】



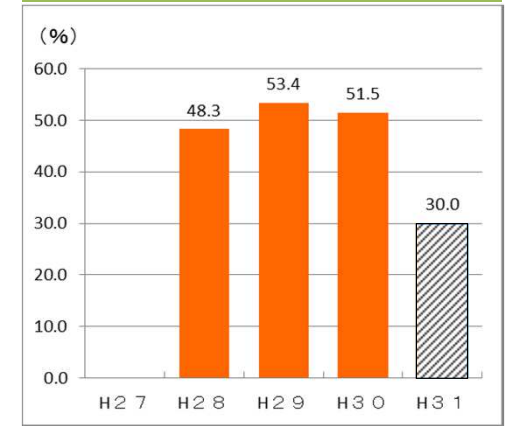
【年間新卒者就職数】



【新見に住み続けたい子どもの割合】



【子育てに不安を感じる親の割合】



平成31年度は「目標値」を表示しています

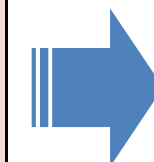
検証と課題把握

いくつかの項目で、目標値を上回る成果が得られています。
しかし、総人口の減少、若年世代の市外流出、後継者不足等による事業所の廃業といった状況も見られることから、これまでの取組を検証したうえで、新たな取組を検討する必要があります。



新たな行政需要

- 新見市版地域共生社会の構築
→人口減少に対応するための仕組みづくり
- 国際的な環境意識の高まりへの対応
→「持続可能な開発目標 (SDGs)」など
- 急激な社会経済構造の変化への対応
→「IoT」「AI」など



新計画策定